
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2009年第30週
(7月20日～7月26日)

- * 2009年7月29日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「腸管出血性大腸菌感染症」も掲載
しています。

平成21(2009)年7月30日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2009年30週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	85	69	64	34	2295	251	14804
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					1		5
	細菌性赤痢	1			2	21	1	96
	腸管出血性大腸菌感染症	7	4	14	17	101	107	1414
	腸チフス	1				9		18
	パラチフス				1	5	1	12
四類	E型肝炎	1				6		27
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			1		10	1	78
	エキノコックス症					1		14
	黄熱							
	オウム病					1		13
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					2	1	105
	デング熱		2			12		36
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						1	39
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
マラリア						14	6	35
野兔病								
ライム病							1	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		1	2	1	29	11	373	
レプトスピラ症						1	6	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	4	4	3	1	76	5	461
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)				1	25	2	122
	急性脳炎 *2	1			2	14	6	125
	クリプトスポリジウム症					1		12
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			11	1	69
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	9		75
	後天性免疫不全症候群	7	5	11	17	291	12	845
	ジアルジア症				1	17	2	47
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		9
	先天性風しん症候群							
	梅毒	3	3		5	122	6	417
	破傷風					3		59
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		8	2	54
	風しん		1			8	2	107
麻しん	5	2	2	3	76	10	513	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3	30	50	18	46	270	740	4986
2009/7/29計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

34

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。2009年4月28日から7月23日の期間は全数届出。2009年7月24日以降は集団発生事例に関連した届出。

※3 全国集計は7月24日6:00現在の国内発生の累計値(検査対象者を含まない。)

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 34件 肺結核21件、その他の結核7件、無症状病原体保有者6件で、推定感染地は国内33件、中国1件、年齢は20歳代6件、30歳代5件、40歳代4件、50歳代5件、60歳代5件、70歳代5件、80歳代4件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 どちらも患者で、そのうち1件は菌種が判明しておりソネネである。推定感染地はインド1件、インドネシア(ジャカルタ)1件、感染経路は飲食物による経口感染1件、その他(不明)1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 17件 患者12件、無症状病原体保有者5件。血清型・毒素型はO157(VT1VT2)8件、O157(VT2)4件、O157(毒素型不明)1件、O26(VT1)1件、血清型不明(VT1VT2)1件、血清型不明(VT2)1件、血清型不明(毒素型不明)1件で、そのうちO157(VT1VT2)2件は同居家族である。年齢は10歳未満5件(うち5歳未満1件)、10歳代3件、20歳代4件、30歳代1件、50歳代2件、60歳代2件で、10歳未満1件(O157VT2)はHUSの発症があった。

パラチフス 1件 患者で、推定感染地はインド、感染経路は飲食物による経口感染であった。

〈四類感染症〉

レジオネラ症 1件 肺炎型で、年齢は70歳代。推定感染地は国内で、銭湯での感染が疑われている。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 腸管アメーバ症で、推定感染地は中国、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

急性脳炎 2件 どちらも病原体不明で、年齢は30歳代1件、70歳代1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 A群で、壊死軟部組織から菌が分離・同定され、創傷感染が疑われている。

後天性免疫不全症候群 17件 無症候キャリア12件、AIDS2件、その他3件で、無症候キャリアおよびその他の年齢は20歳代4件、30歳代5件、40歳代2件、50歳代4件で、AIDS患者の年齢は40歳代1件、70歳代1件であった。推定感染地は国内14件、アメリカ1件、不明2件、推定感染経路は性的接触15件(同性間12件、異性間3件)、不明2件であった。

ジアルジア症 1件 推定感染地は国内で、推定感染経路は性的接触(両性間)であった。

梅毒 5件 早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症候1件で、全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間3件、異性間1件、不明1件)であった。

麻しん 3件 麻しん(臨床診断例)2件、修飾麻しん(検査診断例)1件で、年齢は10歳代1件、30歳代2件。麻しん含有ワクチン接種歴は1回1件、2回1件、不明1件であった。

〈新型インフルエンザ等感染症〉

新型インフルエンザ 46件 患者(確定例)15件、疑似症31件で、年齢は10歳未満2件、10歳代24件、20歳代15件、30歳代4件、50歳代1件。推定感染地は全て国内であった。

※第28週該当分として、五類 麻しん 1件(麻しん:検査診断例、60歳代、ワクチン接種歴不明)、第29週該当分として、五類 麻しん 1件(麻しん:臨床診断例、10歳未満、ワクチン接種歴1回)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2009年30週

定点種別	対象疾患	2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		27週	28週	29週	30週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	17	4	5	5	0.03	147	150
	咽頭結膜熱	44	54	60	35	0.24		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	203	218	163	117	0.80		
	感染性胃腸炎	590	525	505	437	2.97		
	水痘	136	119	141	79	0.54		
	手足口病	99	162	166	187	1.27		
	伝染性紅斑	70	64	62	31	0.21		
	突発性発しん	105	114	102	91	0.62		
	百日咳	3	4	10	9	0.06		
	ヘルパンギーナ	51	105	182	167	1.14		
	流行性耳下腺炎	127	149	139	144	0.98		
	不明発しん症 (注1)	17	20	30	25	0.17		
MCLS(川崎病) (注1)	4	3	0	2	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	20	48	72	82	0.29	285	290
眼科	急性出血性結膜炎	3	1	1	1	0.03	39	39
	流行性角結膜炎	22	16	21	11	0.28		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	1	1	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	0	0	1	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	9	8	8	5	0.21		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	1	0	0.00		

2009/7/29集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・手足口病の定点当たり報告数は増加した。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり報告数は減少した。
- ・流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は微増した。今年に入ってから過去5年平均と比較して高いレベルで推移している。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は微増した。過去5年平均の同時期と比較して依然として多く、引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

大田区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:8才児、病原性大腸菌O25陽性。

* インフルエンザに関するコメントは13頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	1			13		2	1	1		2
～11か月		4	1	49	6	8	2	46	1	11
1歳	3	6	4	60	15	48	1	33	3	53
2歳		2	6	43	13	34	2	7		23
3歳		9	9	38	12	26	2	3	1	19
4歳		5	13	43	8	18	7	1		20
5歳		6	18	32	9	20	6			15
6歳		2	15	20	3	9	4			7
7歳			19	21	3	8	3			3
8歳			7	17	5	4				4
9歳			5	10	2	5				3
10～14歳		1	5	21	3	2	2			2
15～19歳			1	10						1
20～29歳	1		14	60		3	1		4	4
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	5	35	117	437	79	187	31	91	9	167
先週比		-25	-46	-68	-62	21	-31	-11	-1	-15

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月				1		
～11か月		3				
1歳	9	8	1	3		
2歳	7	6	1			
3歳	24	3		1		
4歳	28	2		3		
5歳	25	1		2		
6歳	13			4		
7歳	13	2		4		
8歳	9			4		
9歳	5			3		
10～14歳	7			21		1
15～19歳				19		
20～29歳	4			5		1
30～39歳				3	1	5
40～49歳				5		1
50～59歳				2		2
60～69歳				1		
70～79歳				1		1
80歳以上						
合計	144	25	2	82	1	11
先週比	5	-5	2	10		-10

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2009年30週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		1
20～29歳		
30～39歳		2
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		3

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				1		4		2		
中央区				8	1	1		1		5
みなと	1	5	1	20	2	2		4		6
新宿区		2	6	11				1	1	8
文京				1	1	1				
台東		3	1	12	1	6	2			1
墨田区			3	10	2	6		1		
江東区			7	27	1	24	1	3	1	7
品川区			4	22	5	5		3		5
目黒区			1	2		2	1	1		1
大田区	3	5	7	45	3	3	2	8		5
世田谷		1	6	14	5	6	2			15
渋谷区		1		7		3	1		1	6
中野区			1	18		8		6		5
杉並		2	8	33	6	13		3		5
池袋				10		3	3	2		2
北区		1	1	1		4	1	2		
荒川区		1	2	6	2	3			4	
板橋区			5	15	4	16	1	3	1	1
練馬区			2	5	5	16		2		8
足立		1	6	10	5	6		5		4
葛飾区			4	9	4	7		4		9
江戸川		6	5	7	4	16		3		20
八王子市			21	25	3	6	9	4		7
西多摩	1	2	2	12	3			4		2
南多摩			3	6	1	6		3		4
町田			8	29	7	12	2	11		17
多摩立川		1		17			1			3
多摩府中			2	20	5	4	4	4		11
多摩小平		4	11	34	9	4	1	11	1	10
島しょ										
東京都合計	5	35	117	437	79	187	31	91	9	167

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2009年30週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	1			1		2
みなと	1			1		
新宿区		2		1		2
文京						
台東	4		1	2		
墨田区	1	2		1		
江東区	1	3		4		1
品川区	2	1		3		
目黒区				2		
大田区	11	3		15		1
世田谷	1			11		
渋谷区	2			1		
中野区	1	1		3		
杉並	1			3		
池袋				1		
北区	2	1				1
荒川区				1		
板橋区	1			2	1	1
練馬区				4		1
足立	7	3		4		1
葛飾区	4					
江戸川	10		1	3		1
八王子市	36	4		2		
西多摩	28			4		
南多摩	6			2		
町田	11	4		4		
多摩立川	5			1		
多摩府中	2			5		
多摩小平	6	1		1		
島しょ						

東京都合計	144	25	2	82	1	11
-------	-----	----	---	----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		1
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		1
八王子市		1
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計		3
-------	--	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				0.25		1.00		0.50		
中央区				2.67	0.33	0.33		0.33		1.67
みなと	0.17	0.83	0.17	3.33	0.33	0.33		0.67		1.00
新宿区		0.33	1.00	1.83				0.17	0.17	1.33
文京				0.33	0.33	0.33				
台東		1.00	0.33	4.00	0.33	2.00	0.67			0.33
墨田区			1.00	3.33	0.67	2.00		0.33		
江東区			1.75	6.75	0.25	6.00	0.25	0.75	0.25	1.75
品川区			0.67	3.67	0.83	0.83		0.50		0.83
目黒区			0.33	0.67		0.67	0.33	0.33		0.33
大田区	0.33	0.56	0.78	5.00	0.33	0.33	0.22	0.89		0.56
世田谷		0.13	0.75	1.75	0.63	0.75	0.25			1.88
渋谷区		0.25		1.75		0.75	0.25		0.25	1.50
中野区			0.17	3.00		1.33		1.00		0.83
杉並		0.33	1.33	5.50	1.00	2.17		0.50		0.83
池袋				2.50		0.75	0.75	0.50		0.50
北区		0.33	0.33	0.33		1.33	0.33	0.67		
荒川区		0.50	1.00	3.00	1.00	1.50			2.00	
板橋区			0.83	2.50	0.67	2.67	0.17	0.50	0.17	0.17
練馬区			0.40	1.00	1.00	3.20		0.40		1.60
足立		0.20	1.20	2.00	1.00	1.20		1.00		0.80
葛飾区			1.00	2.25	1.00	1.75		1.00		2.25
江戸川		1.20	1.00	1.40	0.80	3.20		0.60		4.00
八王子市			5.25	6.25	0.75	1.50	2.25	1.00		1.75
西多摩	0.20	0.40	0.40	2.40	0.60			0.80		0.40
南多摩			1.00	2.00	0.33	2.00		1.00		1.33
町田			2.00	7.25	1.75	3.00	0.50	2.75		4.25
多摩立川		0.17		2.83			0.17			0.50
多摩府中			0.20	2.00	0.50	0.40	0.40	0.40		1.10
多摩小平		0.67	1.83	5.67	1.50	0.67	0.17	1.83	0.17	1.67
島しょ										

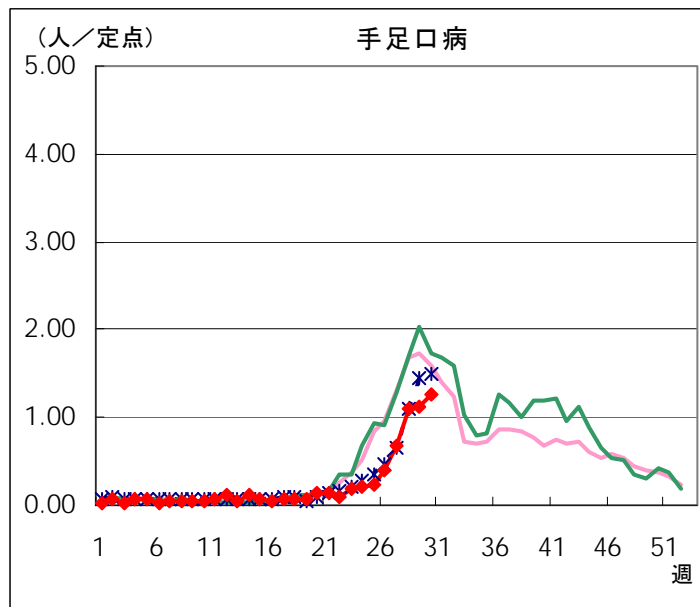
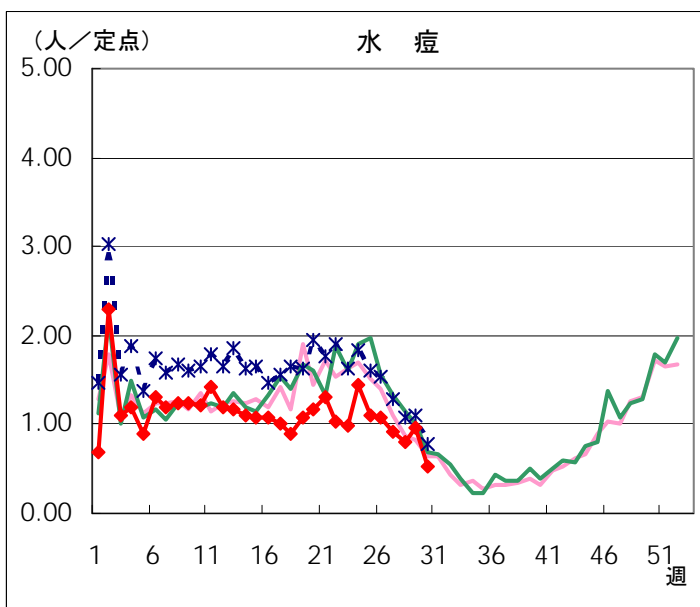
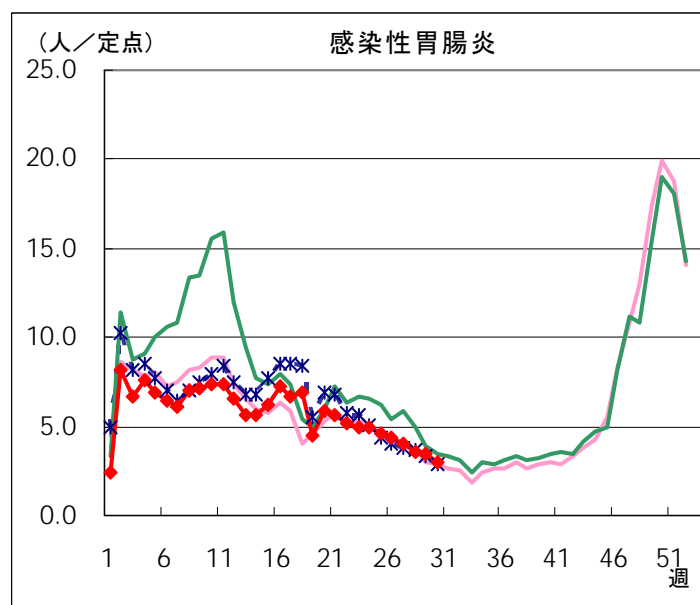
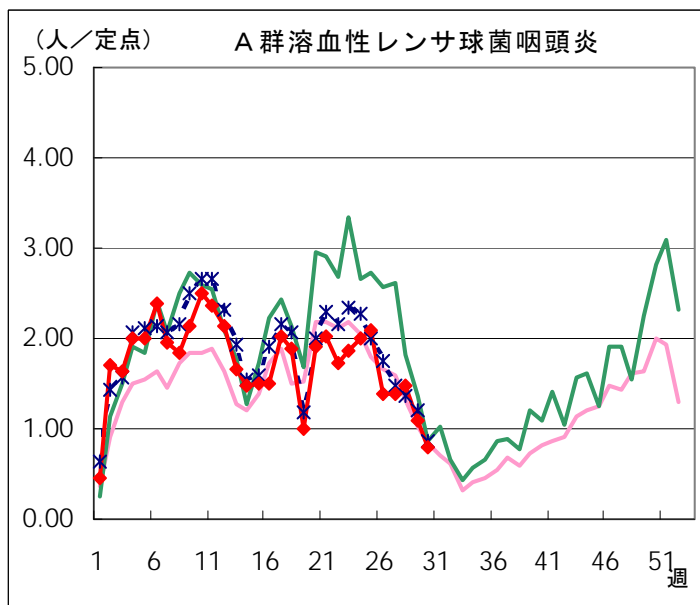
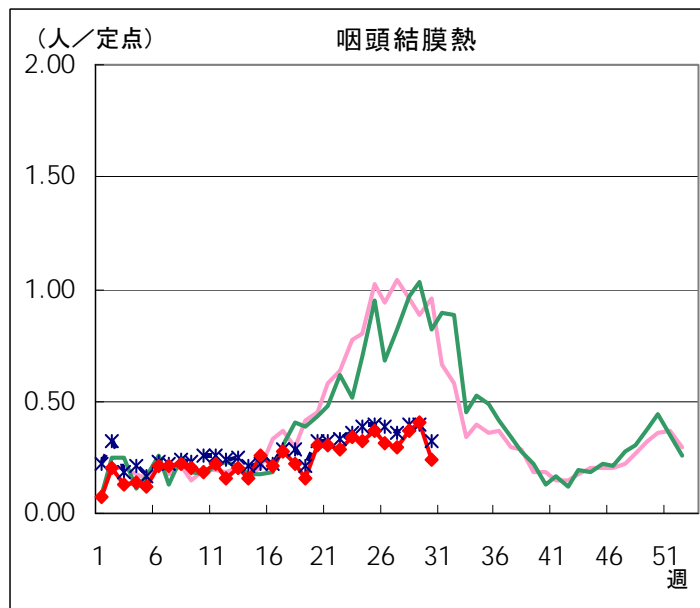
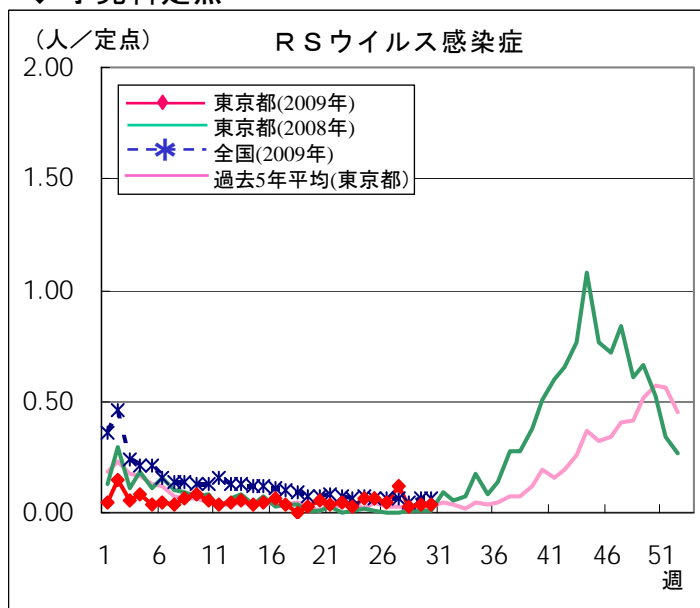
東京都	0.03	0.24	0.80	2.97	0.54	1.27	0.21	0.62	0.06	1.14
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

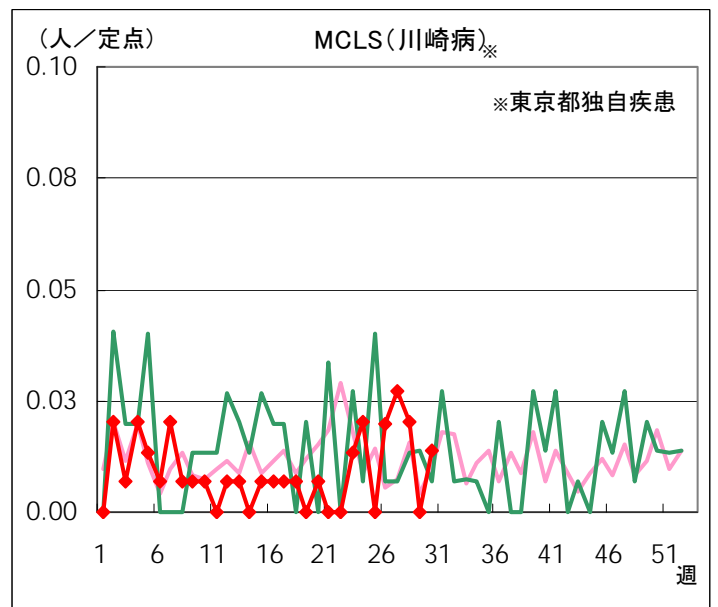
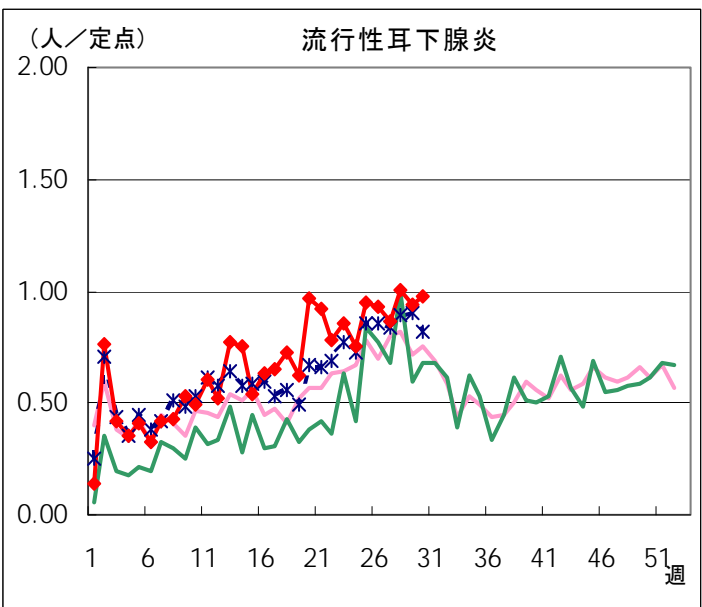
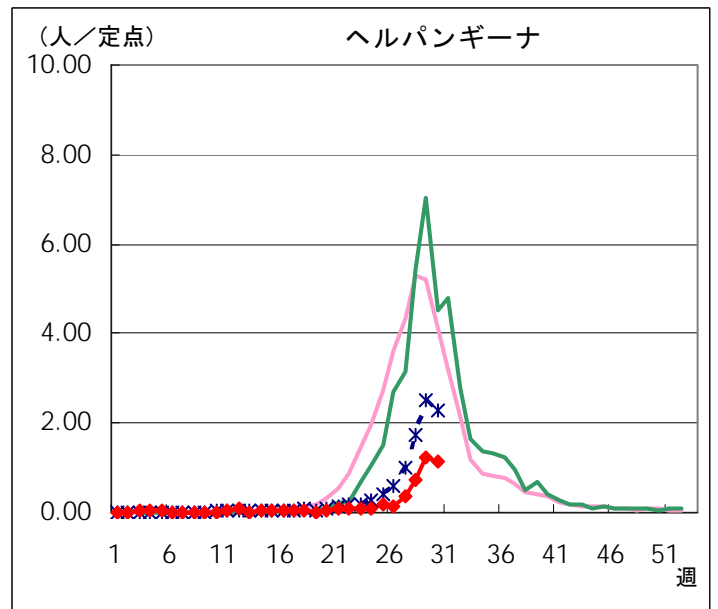
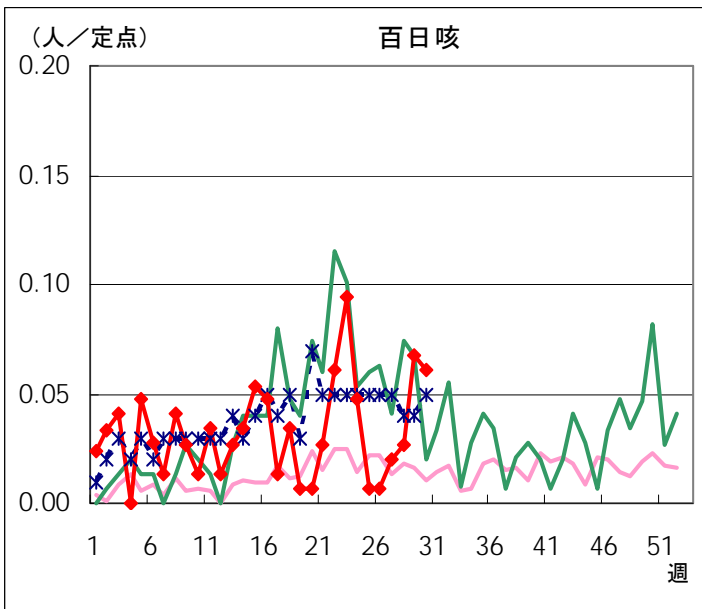
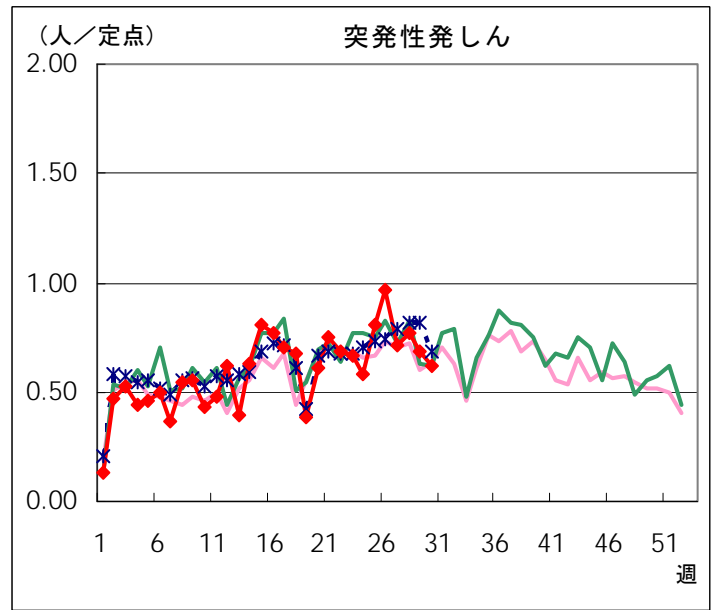
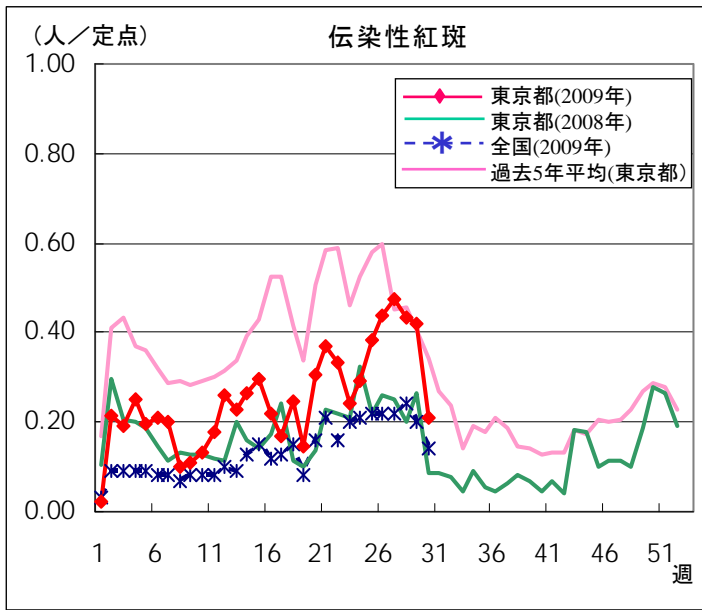
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	0.33			0.25		2.00
みなと	0.17			0.13		
新宿区		0.33		0.11		1.00
文京						
台東	1.33		0.33	0.40		
墨田区	0.33	0.67		0.17		
江東区	0.25	0.75		0.44		1.00
品川区	0.33	0.17		0.30		
目黒区				0.33		
大田区	1.22	0.33		0.94		0.50
世田谷	0.13			0.69		
渋谷区	0.50			0.17		
中野区	0.17	0.17		0.33		
杉並	0.17			0.27		
池袋				0.14		
北区	0.67	0.33				1.00
荒川区				0.25		
板橋区	0.17			0.17	0.50	0.50
練馬区				0.33		0.50
足立	1.40	0.60		0.33		0.50
葛飾区	1.00					
江戸川	2.00		0.20	0.25		0.50
八王子市	9.00	1.00		0.20		
西多摩	5.60			0.44		
南多摩	2.00			0.25		
町田	2.75	1.00		0.44		
多摩立川	0.83			0.08		
多摩府中	0.20			0.24		
多摩小平	1.00	0.17		0.07		
島しょ						

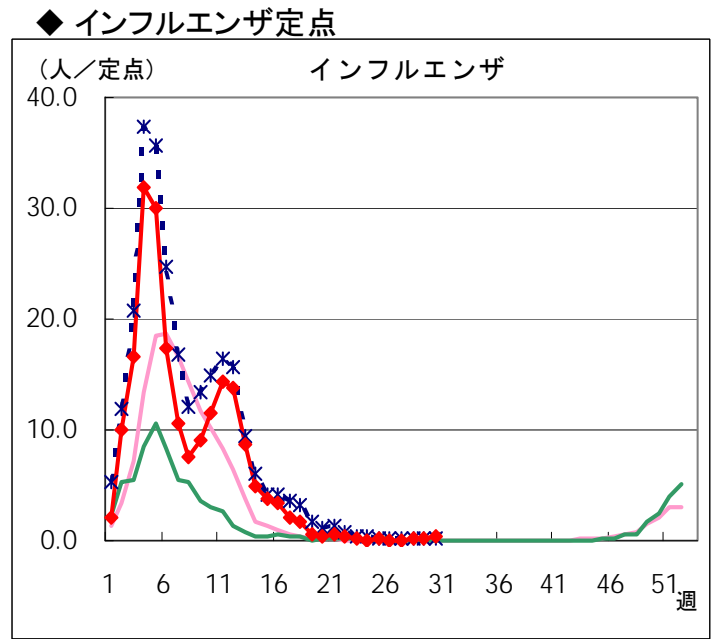
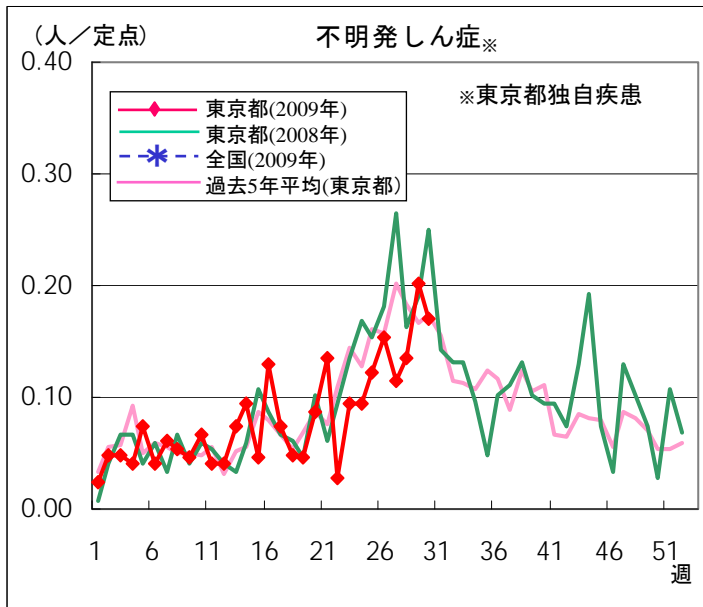
東京都	0.98	0.17	0.01	0.29	0.03	0.28
-----	------	------	------	------	------	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年30週現在

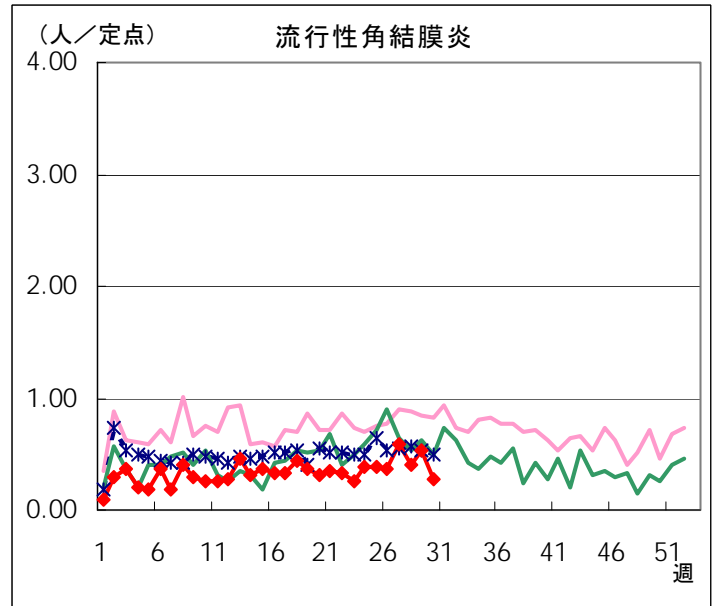
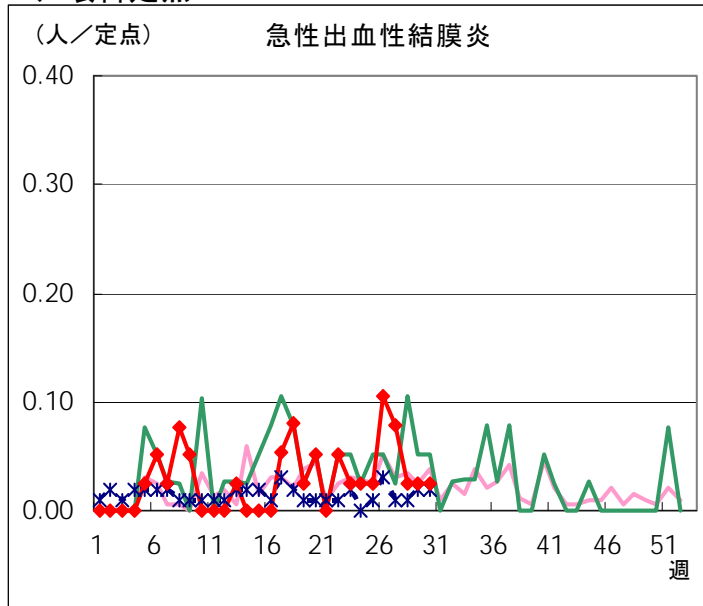
◆ 小児科定点



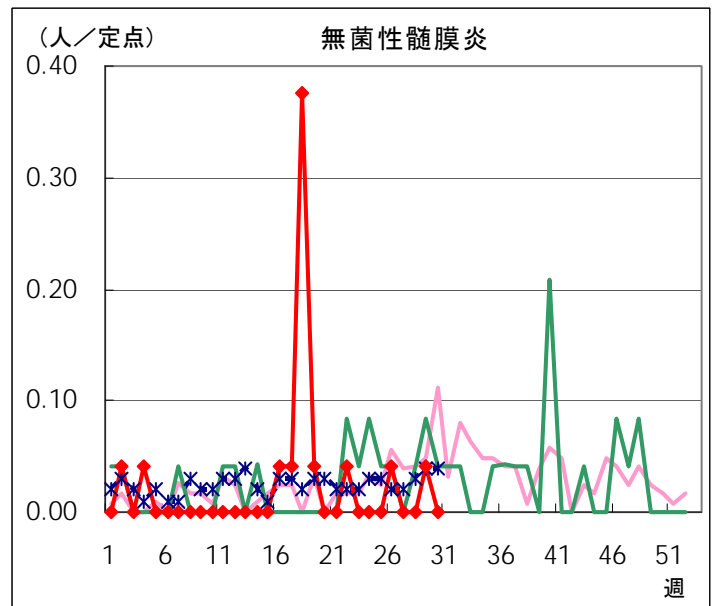
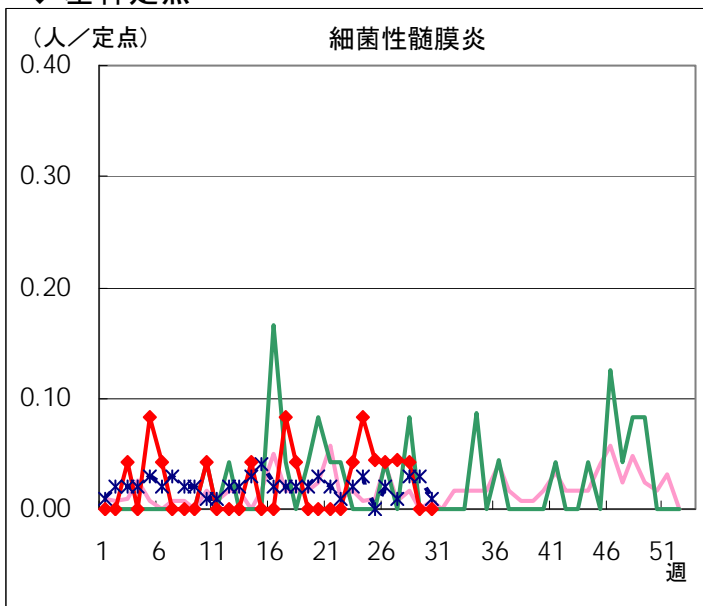


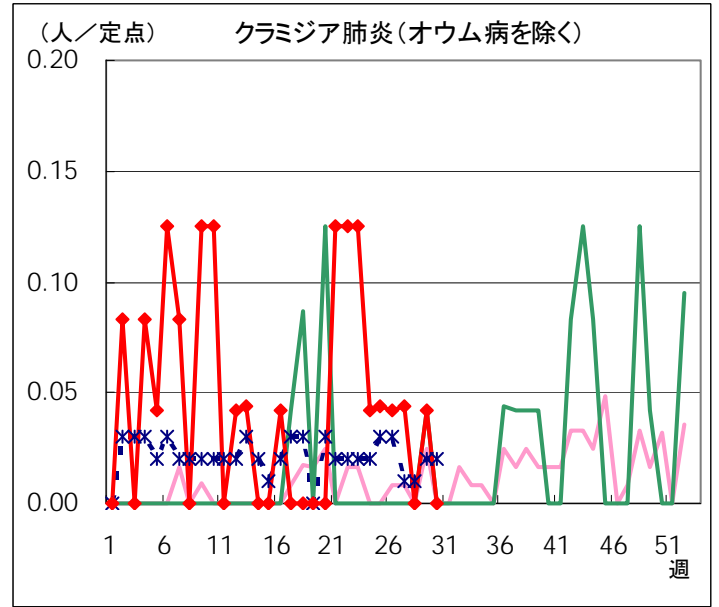
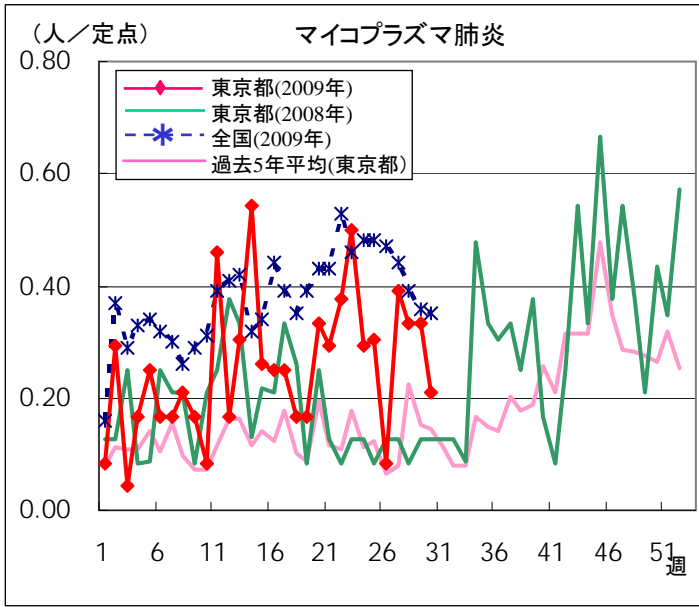


◆ 眼科定点

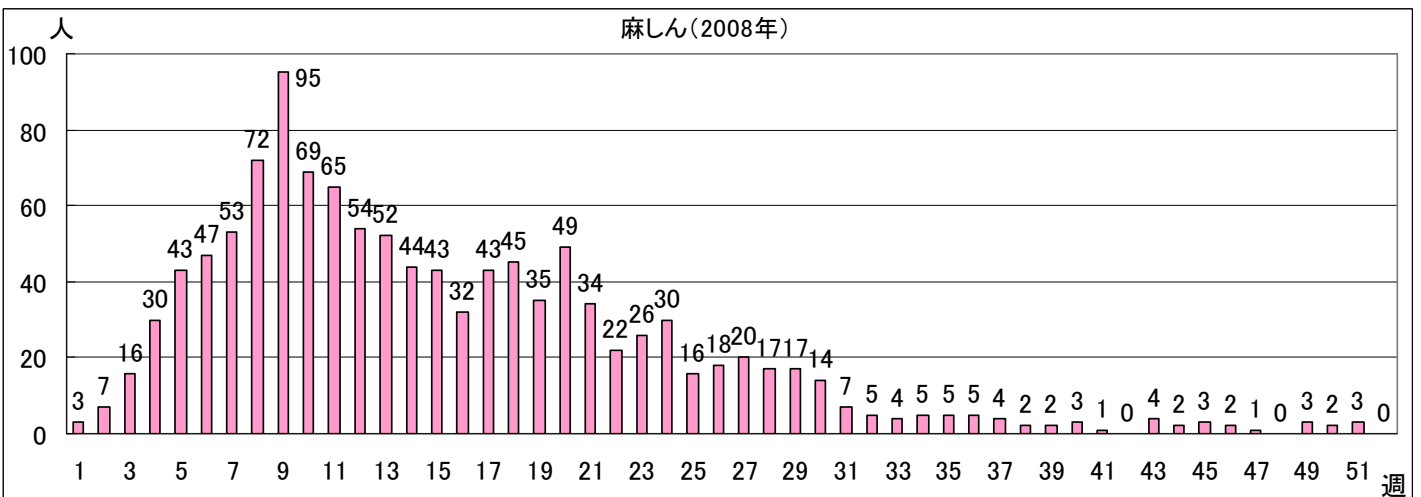
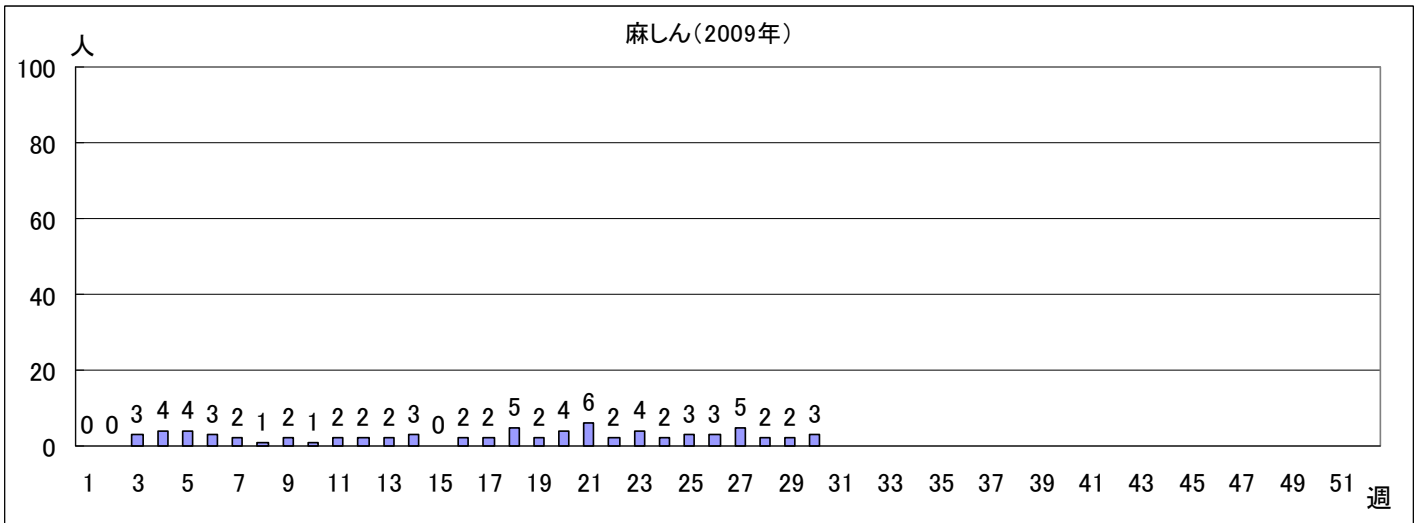


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年30週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果およびコメントをいただきましたので、医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ迅速診断結果		コメント
	A型	B型	
江東区	1		
		1	
	2		
目黒区	2		兄弟です。
大田区	1		6才児。
	1		
	2		兄弟です。
世田谷区	1		
	1		
中野区	2		
	1		
杉並	1		周辺に流行なし。
池袋	1		
西多摩	4		
南多摩	2		
町田	1		17歳。
多摩立川	1		
多摩府中	2		
八王子市	2		新型インフルエンザと思われます。

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/9	喘息性気管支炎	7M	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
7/10	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ライノウイルス、ムンプスウイルス EBウイルス	
7/10	咽頭炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
7/11	川崎病	5M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	
7/11	流行性耳下腺炎	6	咽頭拭い液	アデノウイルス	
7/11	川崎病	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
7/11	手足口病	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/13	マイコプラズマ肺炎	記載無し	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型	
7/13	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス、	
7/13	流行性耳下腺炎	6	咽頭拭い液	ライノウイルス、ムンプスウイルス EBウイルス	
7/13	気管支炎	3	咽頭拭い液	ライノウイルス	
7/13	流行性耳下腺炎、髄膜炎	4	髄液	ムンプスウイルス	
7/14	流行性耳下腺炎、髄膜炎	9	髄液	ムンプスウイルス	
7/14	流行性角結膜炎	29	結膜拭い液	アデノウイルス	
7/14	咽頭炎	9M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型 エンテロウイルス	
7/14	ヘルペス脳炎	11	咽頭拭い液	EBウイルス	
7/14	咽頭炎、不明発しん	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/14	咽頭炎	5	咽頭拭い液	アデノウイルス	
7/14	急性胃腸炎	7M	糞便	アデノウイルス	
7/15	咽頭結膜熱	5	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型	
7/15	咽頭炎、気管支炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/17	顎下腺腫大	5	咽頭拭い液	アデノウイルス、ムンプスウイルス ライノウイルス	

◇定点医療機関から搬入された検体の遺伝子検査法による亜型

亜型検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)
29週	0	0	0	3
今シーズン累計	223	111	102	4

*AH1pdm: 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/HINI)

オセルタミビル(タミフル)耐性ウイルス株の検出状況

7/29現在

調査方法	A/H1N1分離株 (Aソ連型)	耐性株
感染症発生動向調査	33	33
学級閉鎖等	20	20

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年							
		22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週
ウイルス	アデノウイルス	4	10	5	7	8	13	4	6
	ライノウイルス	2	7	2	3	1	4	4	6
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群	1							
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	3	3	3	3	5	5	16	5
	単純ヘルペスウイルス	1	2				1	5	
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	2	1	3	10	3	6	5	3
	EBウイルス	1	4	1	3	5	2	4	3
	サイトメガロウイルス		2	1					1
	ムンプスウイルス		1	6		2	2	1	5
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19							1	
	RSウイルス	1		1					
	ノロウイルス								
	ロタウイルス		1						
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3	1							
	インフルエンザウイルスB								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm							1	3	
デングウイルス(抗体を含む)					1				
その他のウイルス		5	9	4	7	12	13	1	
細菌	カンピロバクター			1					
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌	3			1		5	1	
	その他の細菌	3	1	1		1	3	2	
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年22週～2009年29週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	18	65	71	26	44	10	1	11	3	7	3	31	12				147	
ウイルス	アデノウイルス		11	11	5		4	3		1		9	1				12	
	ライノウイルス		4	7			2					2	4				10	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群									1								
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	1	13	8	1	1	2			3		5	1					8
	単純ヘルペスウイルス		2			2		1	2	1								1
	水痘・帯状疱疹ウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		2	3		1						10						17
	EBウイルス		1	1		6			1			6	3					5
	サイトメガロウイルス											1	1					2
	ムンプスウイルス					7								4				6
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1						
	RSウイルス			2														
	ノロウイルス																	
	ロタウイルス				1													
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3	1																	
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	2	1															1	
デングウイルス(抗体を含む)																	1	
その他のウイルス		15	29	2		1											4	
細菌	カンピロバクター				1													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		4					1									5	
その他の細菌		5	3														3	
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

腸管出血性大腸菌感染症

感染症法に基づく医師の届出による腸管出血性大腸菌感染症の患者および無症状病原体保有者は、平成19年4,617例、平成20年4,330例と2年続けて4,000を超えた。毎年夏季に大きく増加しているが、人口当たりの患者数はかなりの地域差が見られ、平成20年では東京は47都道府県中21番目であった。例年、患者は0～4歳、5～9歳の順に低年齢に多く、有症者の割合は男女とも若年者と高齢者で高い。平成20年は溶血性尿毒症症候群(HUS)、あるいは急性腎不全による死亡例が8例報告された。

腸管出血性大腸菌は赤痢菌と同様に、少ない菌量で感染が成立する。このため、少数の菌で汚染された食品が感染源となりうる。実際に原因食品から菌が分離されて食中毒と特定される事例は少なく、食品衛生法に基づく届出があった腸管出血性大腸菌による食中毒は平成20年には17事件で、患者総数115人に留まっている。しかし、過熱不十分な食品の喫食が原因と推定される症例は多く、特に幼児、高齢者、抵抗力の弱い者に生レバー、生肉、加熱不十分な食肉などを食べさせないことが重要である。また、過熱せずに食べる生野菜、漬物等の食品による集団発生事例も報告されている。調理時の二次汚染にも注意が必要である。

一方、患者や無症状病原体保有者が排泄する少量の菌で家族内感染や保育園・幼稚園・病院などの施設内感染が起こりやすいことにも注意が必要であり、オムツ交換や用便後および食事前の石鹸による手洗いなど、普段から基本的な衛生習慣を身につけておくことが感染予防に有効である。

(文責・国立感染症研究所感染症情報センター 山下和予)